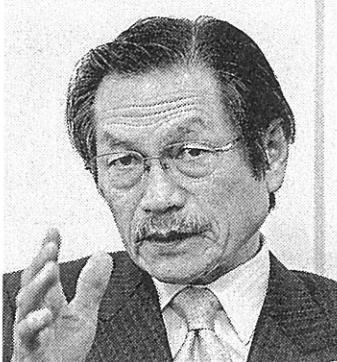


■日刊建設工業新聞(2013年1月11日付)

2013展望～建設コンサルタント

ACKグループ 廣谷彰彦社長「受け身型経営形態から脱却」

2013展望



ACKグループ
廣谷 彰彦 社長

受け身型経営形態から脱却

建設コンサルタントは、公共投資に軸足を置いていた事業形態がどこまで続くのか、という根本的

な課題を抱えている。自大を目指す。

だ。コンサル業界では人

事業の拠点となる現地法

者が活躍できる場面はど

ら民間分野をどこまで伸ばせるかが最重要課題となる。アジアを中心こ

てない。人材の多様化や
情報インフラの高度化を
進めながら、日本人技術

らの立ち位置を厳しく捉え、会社や職場のあり方をもう一度考える必要がある。これまでの事業基盤を守り、ボリュームで稼ぐ時代は終わった。縮小均衡にある国内市場では、公共以外の分野に積極的に投資し、業容の拡張を優秀な人材の確保と育成に責任を持つ。

投資や業容拡大はリスクを伴うが、経営者として失敗は許されない。社員に意識改革を求める以上、社長として成果を出すことが使命であり、結果

人を正面、毎年2～3社
は立ち上げていきたい。
内にこもって日本人あり
きの経営をしていれば、
この先持たないのは明白
だ。買収で巨大化した欧
米企業と同様の動きがで
きなければ、世界レベル
の厳しい競争には打ち勝

受け身型の経営形態から脱却し、主導的に動ける分野を拡大しながら、収益性を高めていく。新たな取り組みの成否は、ここ2~3年の動きにかかっている。

建設コンサルタント

らの立ち位置を厳しく捉え、会社や職場のあり方をもう一度考える必要がある。これまでの事業基盤を守り、ボリュームで稼ぐ時代は終わった。縮小均衡にある国内市場では、公共以外の分野に積極的に投資し、業容の拡大を伴うが、失敗は許されない。社員に意識改革を求める以上、社長として成果を出すことが使命であり、結果に責任を持つ。果たしたいたい。

投資や業容拡大はリスクを伴うが、経営者として失敗は許されない。社長が描けず、先細りといふイメージがあったことだ。将来像を具体的に明示し、社員と共に成長する。海外展開でも、現在の領域で足場を固めながら、優秀な人材の確保と育成